

ずいひつ ②

Z U I H I T U



五感で感じる大切さを忘れずに

東京都水道局 技監

松田 信夫

東京都の水道事業は、近代水道として淀橋浄水場からの給水が開始されてから昨年125周年を迎えた。この間、戦中戦後の経済停滞を除き、東京という街は旺盛な水道需要に対応するための施設整備に追われたが、先人達のご苦勞もあって今日の東京水道を形成するに至っている。

当局では、水源から蛇口までをキーワードの一つに事業展開を行っているが、水道水源林の管理から、基幹施設を始めとする水運用ネットワーク、給水管の耐震化や貯水槽の適正管理に向けた助言など、様々な技術力の蓄積が財産となっている。これからの時代を鑑みると、人口減少に伴う料金収入の減少、施設の老朽化など先行きに明るい兆しを見出し難い状況である。引き続き、安定的な事業運営を堅持するためにも、技術力の維持向上が必須となるが、技術力とは技術とい

う知識の保有に留まらず、それを活用するための応用や決断する力を含めた総体だと常々考えている。

このことを改めて強く感じたのは、元日に発生をした能登半島地震であり、当局では政策連携団体を含めて延べ781人、都内工事事業者133者延べ944人を5カ月間派遣して対応に当たり、現在も輪島市に一人を長期派遣している。8月に派遣者などによる報告会を開催したが、現地での調整や、何よりも被災地の一刻も早い水道復旧をとの使命感から、持てる技術力を発揮した報告が多々あり、心強く感じたところである。

最後に、この「ずいひつ」コーナーには趣味も織り交ぜてとのリクエストがあったので、週末サイクリングの話に触れる。主に、河川敷を走行するが、これが浄水場や取水地点とも重なり結構楽しい。ただ惜しむらくは、今夏は酷暑による熱中症予防のため出勤を控えてきた。長距離といえるロードは5年ぶりに5月に開催された小菅村多摩源流祭りを最後に自粛してきたが、彼岸も明けたので東京湾を目指すなど徐々に再開しようと思う。



水のような人に

2024ミス日本「水の天使」

安井 南

みなさんこんにちは。ミス日本「水の天使」の安井南です。

私がこのような挨拶をできるのは、光栄なことにミス日本に選んでいただいたからです。ここでは私がミス日本コンテストで経験したことをお話しさせていただければと思います。

私は「水のような人になりたい」と考えているのですが、そのきっかけはミス日本コンテストでした。私がコンテストに応募したきっかけは、元ファイナリストの母でした。「ママの夢を代わりに叶えて欲しい」。この一言で私はエントリーを決意しました。とは言うものの、当時の私はミス日本コンテストに対して「お嬢様だけ」「高学歴の人だけ」が応募するのではないかという先入観を持っていました。しかしエントリーするに当たり調べてみると、内面・外見・行動の3つ

の美しさからなる「日本人らしい美しさ」を審査基準に掲げていると書いてありました。

私は今までの人生で5種類の武道を習得してきました。この経験から「強さ」にこだわるようになり、「自分の芯はぶれない方がいい」と考えていました。剣道がその典型で、芯をぶらさず相手の真ん中に竹刀を置いていないと、あっさり1本を取られてしまいます。

しかし、ミス日本のファイナリストに選ばれてから参加した勉強会にて、今まで知らず知らずのうちに避けていた自分の性格に直面し、ぶれない強さだけでなく、水のように順応する強さも知ることができました。器に入れば器の形に、集まれば岩を破壊するほど強くなる水。そんな水のようになれ。これは、私が尊敬しているブルース・リーが唱えていた言葉です。

ミス日本「水の天使」に選んでいただいた今、内面も外見も行動も水だらけの日々を過ごしています。これからも、水の広報官として沢山発信していきますので、よろしく願いいたします。